

SMC金融・経済マーケットレポート

Reporter SMC 豊島 健治

カウントダウンが始まった！？

(賢人は常に最善を望みながら最悪を覚悟する。
……ピーター・タスカ)

今月の5日夕三塚蔵相は、日債銀の株価急落を受けて「一部に報道されたような日債銀の経営破綻はありえない。日銀と大蔵省を信用して下さい」と明言した。この「口先介入」は、2ヶ月前に「市場のことは市場に任せるほかはない」と云った人の言葉とも思えないが、それはともかく蔵相をしてそう言わせたのは、他にもないその市場の圧力そのものだった。

今年に入ってから銀行株に対する売り圧力はすさまじいもので、下の表は業態別銀行の昨年11月高値と直近の株価比較である(一部抜粋)。

銀行名	11月高値	2月10日	下落率
日債銀	343円	202円	41%
富士銀	2,070円	1,230円	41%
安田信託	559円	357円	36%
関東銀	336円	164円	51%
東京相銀	600円	435円	28%

(関東銀は50円額面に引き直す)

たった2ヶ月余りでこの有様だ。誠にもって銀行株を保有する人達にはお気の毒なことであるが、銀行株が資産株である時代はとうに過ぎ去った。

今回の銀行株下げの要因は、私の見るところ二つある。一つは、云うまでもなく割高の修正である。資本の収益性や効率性に見合った株価水準を模索する動きの中で割高な銀行株が売られたという合理的側面を持っている。

もう一つは、これが問題なのだが株価が一部の銀行の破綻を見込みはじめたことだ。現時点で東京大阪両市場で株価が100円台の銀行株は4銘柄ある。マーケットでは、100円台の株価を倒産株価と呼んでいるが、それに該当する銘柄に日債銀が突入したところで蔵相の救済会見が行われた。

実際破綻する銀行が出るのだろうか。出るとすれば何時どういう形で出るのだろうか。

今、市場関係者が注目しているのは日債銀の利付き金融債(リッシンと呼ぶ)である。今月、日本興銀が1.6%100円で発行する利付き金融債を、日債銀は2.35%100円で発行する予定である。しかし、果たしてリッシンを買う投資家がいるかどうか

かに注目が集まっているのだ。

リッシンは市場で敬遠され、今月4%台でやっと小額取引が成立した。2.35%のリッシンを100円で買えば、買った途端約10円の含み損を抱えてしまう。つまり90円の市場価値しかない有価証券を100円で買う投資家がいるかどうかである。

大蔵省の影響力行使と金融ムラの相互扶助によりある程度は日債銀の金融債は売れるかもしれない。しかしそんなやり方がいつまでも続くとは思えない。今月から発行総額を従来の半額(300億円)に抑えるというが、いずれ市場の拒否に出逢うだろう。となれば、最後の綱は日銀による流動性供与、ということになるだろう。

銀行も一般企業と同様日々の資金繰りが組めなくなったとき破綻する。毎日数十億、数百億の資金調達、資金運用を日本銀行に置かれた当座預金を通じて繰り返している銀行にとって、調達の道を絶たれることは死を意味する。

そうした状況に近づいている銀行が幾つか出始めて、決済資金をやりとりする短期金融市場には緊迫感が漂っている模様だ。

また、資金繰りは付けられたとしても、この3月決算を乗り切るには更に大きな関門が待ちかまえている。それは監査法人による監査である。

住専や兵庫銀で明白になった決算粉飾に、監査法人は何をやっていたのかという基本的な疑問が出された。従来の馴れ合い監査が否定され、下手をすると監査役自身が訴えられかねない中、今監査法人は銀行決算の監査に非常に慎重で且つ厳しいようだ。昨年11月の阪和銀行破綻は、監査法人の抵抗により9月中間決算の発表にたどり着けなかったためとも云われている。

はたして、噂される幾つかの銀行は、この3月決算を無事発表することが出来るのだろうか。監査法人の承認をすんなりと貰えるのだろうか。

残された時間は少ない。

貴社の取引銀行はどの辺に？

2月10日付けで東証一部上場全銀行株(96銘柄)の上場来高値からの下落率ランキング表を作成しました。欲しい方はFAXして下さい。FAXで送ります。